

入学試験志願票記入例

- 1.作成にあたっては、黒ボールペンで丁寧に本人自著で記入してください。
- 2.書き損じた場合は、修正液・修正テープ等を使用してください。
- 3.故意に記載事項に偽りを記載した場合には、不合格または入学取消となる場合があります。

2022年度 法政大学大学院法務研究 提出書類B
 願票 1/2
 2回目以降の出願の場合、既に
 出願した入試の受験番号を
 すべて記入してください。

今回出願する入試を
 ○で囲んでください。

今回出願する入試 該当するものを○で囲んでください	
第1期	既修A方式
第2期	既修B方式
第3期	未修C方式
第4期	併願(既修A方式と未修C方式)
第5期	併願(既修B方式と未修C方式)

既に出願した入試がある場合 受験番号をすべて記入してください	
11301	

受験番号(記入不要)

入試種別	一般 早期卒業・飛び入学
------	-----------------

写真貼付欄
 (4cm×3cm)
 カラー、上半身、脱帽、正面。
 1.背景なしで、3カ月以内に撮影したものであること(スナップ写真不可)。
 2.試験当日に眼鏡を使用する人は、眼鏡着用の写真であること。
 3.写真裏面には氏名を必ず記入すること。

・高校からの学歴をすべて(海外の教育機関・通信制教育・予備校等についても該当するものがあればすべて)記入してください。

・高等学校卒業程度認定試験の方は、学歴の学校名欄に「高等学校卒業程度認定試験」と記入し、学歴の年月欄に「合格した年月」を記入してください。

・学歴および職歴(無職の期間を含む)を現在に至るまで空白の期間が生じないよう時系列にそれぞれ記入してください。

・欄内に書ききれない場合は、別紙に記入してください。

・自営業やパート・アルバイト、主婦・主夫などの社会経験、無職・自宅学習の期間についても、時系列に記入してください。

・職歴が多岐にわたり欄内に書ききれない場合は、別紙に記入してください。

複数の大学を卒業している場合、「大学」には自分が最も有利と考える大学を入学の基礎とし、「コード一覧」を参照し記入してください。

姓 **ホウセイ** 名 **ハナコ**
 氏名 **法政 花子**
 生年月日 **X X X X** 年 **0 4** 月 **2 2** 日 年齢 **22** 才 性別 **男** **女**
 〒 **1 0 2 - 0 0 7 3**
 住所 **東京都千代田市富士見2-15-1 BTヒルズ301**
 電話番号 **03-3264-90XX** 携帯電話番号 **090-X0XX-XXXX**
 メールアドレス **XXXXXX1234 @ XXXXX.co.jp**

出願日現在の年齢を記入してください。

(西暦)		学 歴 (高等学校卒業から、最終学歴を記入してください)	
2017年 3月	東京都 立	〇〇	高等学校 卒業
2017年 4月	自宅学習		入学・ 年次編入 1年・2年・3年・4年 卒業・卒業見込・退学・修了
2018年 3月			入学・ 年次編入 1年・2年 3年 4年 卒業・卒業見込・退学・修了
2020年 4月	法政大学 法学部 法律学科		入学・ 年次編入 1年・2年・3年・4年 卒業・卒業見込・退学・修了
2021年 3月			

大学院 学位名		修 士	学位授与機関名	
(西暦)		職歴および社会における実務等の経験を記入してください		通算
年 月				年
年 月				ヶ月
年 月				年
年 月				ヶ月
年 月				年
年 月				ヶ月
年 月				年
年 月				ヶ月

出願資格コード **0 1** 出身大学コード **2 2 4 9** 学科系統分類コード 大分類 **0 2** 中分類 **0 1**
 修得した単位数 **S・A・A+・秀・優(100~80点)** **0 5 8** 社会人経験 **0**
1 2 0

・科目数ではなく、**単位数**を記載してください。

・複数の大学を卒業している場合、入学の基礎とする大学の成績を記載してください。その際、認定科目は加えないでください。

・入学の基礎とする大学に編入している場合、編入の基礎とした大学(短大等)の成績も記載してください(編入前の大学の成績証明書も提出の必要があります)。

・出身大学の成績の評価基準が志願票記載の配点と異なる場合は左欄のままにしてください。その際、成績証明書に評価基準が明記されていないときは、履修要項・シラバス等に記載されている評価基準のコピーを証明書とともに必ず提出してください。

職歴等実務経験がある場合は1を、ない場合は0を記入してください。

※下記の場合は**1**を記入してください。
 ・給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている方(パート・アルバイトを含む)。
 ・企業などを退職した方、主婦、主夫。
 ・夜間(二部)や通信教育課程の大学在学中に就労していた方。